

実施団体の概要

- ・所在地：（本社）東京都港区西新橋1-3-1 西新橋スクエア（沖縄事務所）読谷村字渡慶次1149-3松堂ハウス2F（第1農場）読谷村字宇座根神地原694（第2農場）読谷村字喜名2346-3
- ・取組主体：MHCトリプルウィン（株）沖縄事業所
- ・栽培作物：いちご
- ・作付面積：第1農場＝約300坪、第2農場＝約240坪
- ・作業員数：10人

導入技術

農業クラウドシステム「MARSUN-IoTサービス」

- 技術概要：環境センサー情報の蓄積・活用、生産状況と労働実績の登録により「農場運営の見える化・共有」を実現。農場運営を改善していく「PDCA実践」のための機能を提供。
- 提供する機能：施設園芸・植物工場の運営管理を支援する機能（①施設情報の見える化、②生産・労働実績の登録・見える化機能、③新規就農支援マニュアル等）



ハウス内設置の環境センサー



遠隔栽培指導サポートツール

導入経緯

- 沖縄県におけるいちご生産モデルの標準化を目指し、県内の農家へいちご栽培を普及、地域農業へ貢献することを目指している。その一貫として、生産現場の見える化を図るため、読谷村に平成28年から第1農場、令和2年に第2農場を立ち上げ、システムを導入した栽培の実証を行っている。

取組の特徴・効果

- 環境センサーで温度、湿度、日照、地温、土壌水分量等のデータを取得、クラウドに蓄積した情報を活用することにより、効率的に農場運営を改善することが可能となった。
- 生産量の目標は両農場あわせて8トンで、販売先はJ A なかゆくい市場、コープおきなわ、近隣の観光ホテル、洋菓子店等、地産地消での販路を拡大している。
- 第2農場においては最新の環境制御技術を導入し、遠隔リモートを中心とした研修事業化への準備を行っている。

今後の課題

- 将来的には、データとIoT技術の連動により、施設の空調調整や灌水等の自動制御を検討し、労働力の削減を図りたい。
- コストに見合う収益をどこに設定するか損益分岐点が課題と考えている。今後は、栽培技術の確立と併せて経営モデルの標準化にむけた検証を行う必要がある。
- 県内へのいちご栽培普及に向けた取組にさらに注力。今後6次化コラボ商品開発によるブランド強化、いちご栽培研修施設の運営、観光農園にも取り組みたい。